

認知症の人に学び

ともにあゆむ

クリスティーン・

ブライデン講演

上

仲本 しのぶ



市民介護相談員なはを存じだろ
うか。私たちは毎月2人1組で契約
している介護保険事業所を回り、利
用者の話を直接傾聴して事業所や行
政などに伝え、介護サービスの質の
向上と高齢者の権利擁護を図るこ
を目的に活動している。

訪問中、認知症を持つ利用者や接
することも多い。毎回自己紹介から
始まるが、通い続けると、懐かしい
人に会ったように満面の笑みで迎
てくれる。取りとめのない世間話か
ら、職員の対応や施設環境、食事や
排せつ、入浴などの身体ケア、体調
の悪さや身体の痛み、家族や他の利
用者との関係など、これまで過去6
年間に、約1万件の利用者の声を拾
い集めてきた。

その中で分かったのは、認知症に
なること以上に、「認知症の人」と
いうレッテルを貼られることの方
が、つらさを倍加させているとい
うことである。

例えば認知症の利用者と話すこ
と、事業所の職員から「その人はニンチ
ですから、会話はできませんよ」と言
われることがある。認知症ケアに心
を尽くす事業所や職員も多くいる
が、介護現場では認知症の人は何も
分からない。何もできない」という図
式が成立しているように感じる。

ある日、痛みを訴える利用者の言
葉をその事業所の職員へ伝えたこ
ろ「この人はニンチが入っています
から。相談員さんもニンチの人の話
を真に受けなくてください」との返
答があった。がん患者に対しては誰
もがそのつらさを察することができ
るが、認知症に対してはまだまた社
会全般の理解は低いようだ。

介護相談の現場から

なお低い理解 つらさ増す



介護相談員と談笑する利用者(写真は本文と関係ありません)＝2012年8月、那覇市・識名清風苑

多分それは、認知症についてマイ
ナスイメージばかりが先行し、正し
い理解がほとんどなされていないか
らだと思う。

私たちは数年前から、英国の故ト
ム・キッドウッド教授が提唱する認
知症のケア方法「パーソン・センタ
ード・ケア」を学んでいる。認知症
の当事者として正しいケアのあり方
を提唱するクリスティーン・ブライ
デンさんが今回初めて来沖講演する
が、彼女が「私たちのことを何もで
きない人と思わないでください」「ゆ
つくりと私たちのペースで聞いてく
ださい」「介護者ではなく、介護パ

ートナーになってください」と表し
ていることと、同ケアは全く同じ学
びがある。

今回の講演は認知症を持つ方々と
その家族、ケアに携わる全ての人々
にとつて、大きな学びとなるに違
ない。

◆(市民介護相談員なは理事長)

◆クリスティーン・ブライデンさん
の県内初の講演「認知症の人に学び
ともにあゆむ in 沖縄」(主催・N
POシルバー総合研究所)は11月3
日午後1時から、名護市の名桜大学
ホールで開かれる。参加費2千円。

郵便物認可

第22869号

(日刊)

沖縄 タイムス

OKINAWA TIMES

2012年10月2日 火曜日
(平成24年) 【旧8月17日・赤口】

発行所 那覇市おもろまち1丁目3番31号
(郵便番号900-8678) 沖縄タイムス社
私箱 那覇中央郵便局293号 ©沖縄タイムス社 2012年

くらし面＝日曜「ゆるナビ」、月曜「健康シニア」、火曜「かぞく消費」、水曜「しゃかい女性」に関するご意見や情報をお寄せください。

「くさくさ」は女性専用の投稿欄です。400字。題名、氏名、住所、年齢、電話番号は欄外に明記。送り先は下記まで。

▼電話098(860)2552 ▼ファクス098(860)2484 ▼メールkurashi@okinawatimes.com